

# 荒廃する人工林を再生へ

## 注目される森林整備のモデル事業



林業採算性の悪化や山村の過疎化を背景に森林の荒廃が進んでいる。国は地球温暖化防止の観点から、大規模な間伐計画を推進するが、人の手が入らないと荒れてしまう人工林の割合が高い私有林の整備が課題。こうした中、愛知県新城市では緑豊かな森林をばくもくと、私有林を整備のモデル地区を設定。「団地化」と呼ばれる手法で、複数の山林所有者を一つにまとめて管理し、林業の低コスト化を実現している。山村振興を推進する公明党の渡会克明県議と、同市の森林整備に尽力する鈴木眞澄市議はこのほか、団地化のモデル地区を視察した。

### 愛知県新城市

備のモデル地区を設定。「団地化」と呼ばれる手法で、複数の山林所有者を一つにまとめて管理し、林業の低コスト化を実現している。山村振興を推進する公明党の渡会克明県議と、同市の森林整備に尽力する鈴木眞澄市議はこのほか、団地化のモデル地区を視察した。

## 所有者まとめ「団地化」 収益の低コストの林業を実現

しかし同市の人工林の大部分は私有林のため、販売や細分化して多人数の山林所有者が存在。しかも所有者の境界が明確でなかったり、所有者が地元に住んでいないケースも多く、森林整備が山林所有者を集合住宅



団地化のモデルとして現在、森林整備が進められているのは、同市塩沢地区の舟着山。昨年、同地区では間伐による山林の手入れが行われた団地化のモデル地区。所有者約260人から成る「舟着山森林愛護塩沢組合」が発足し、公明党の鈴木眞澄市議が組合長に就任した。同組合は塩沢地区の約2000畝を対象に森林整備計画を作成するとともに、団地内の森林調査を実施。所有者の意見も聞きながら間伐の実施に向けた協議を進めてきた。鈴木市議は組合長として、不明となっている所有者を登記簿などから特定する一方、市外の所有者も訪ね歩き、団地化への理解を求めた。所有者を対象に懇談会も活発に開催し、合意形成を地道に図っていた。

### 公明、合意形成など促進

のようについにまとめて組合方式で管理し、森林整備を進めやすくするもの。団地化した組合組織を窓口にする。所有者は①森林整備を依頼する事業者との煩雑な契約を交わす必要がない②森林整備の費用軽減や境界の明確化も容易になる③などのメリットがある。

森林整備が進められる現場を視察し、作業員と懇談する(左から)渡会県議と鈴木市議

境界の明確化には森林整備地域活動支援交付金を活用し、所有者の立ち会いのもとで確認や杭打ち作業を実施。境界には所有者の表札を立て、自らの山林に愛着を持てるような工夫も凝らした。団地化により効率的な間伐作業ができ、林業の低コスト化も可能に。愛知県が推進する「林業再生あいしモデル低コスト林業」を活用することにより、高性能の林業機械を導入し、作業を簡素化した。これによって、木材の生産から流通までに掛かる総費用が従来半分に抑えられ、木材価格が長期低迷にあえぐ中でも収益を上げることが可能となることから、林業再生の新たな取り組みとしても注目されている。

この日、渡会県議と鈴木市議は、きれいに手入れが入れ、風通しも良くなった山林を視察。現場の作業員らと意見交換し、「団地化の成功モデルを県内に広げ、森林再生を推し進めることにも、もう一度、林業を利益の上がる地産産業に育てること、山村に住む若者に希望を与えてきた」と語っていた。